



少年センターだより



令和3年7-8月号 (第413号)

毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく！ 第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話, 家族の輪

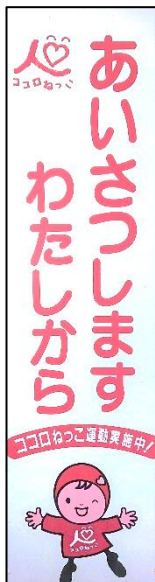
7月は「ココロねっこ運動強調月間」です

皆さんは、このような看板やのぼりが町の様々な場所に立てられているのをご存じですか。「ココロねっこ運動」とは、子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てるといふ長崎県の県民運動です。「あいさつします わたしから」「大人がかわれば 子どももかわる」などのスローガンは有名です。

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」であり、それに併せて長崎県は「ココロねっこ運動強調月間」を展開します。

大村市内には14の「地区・校区青少年健全育成協議会」(以下 健全協)があり、それぞれの健全協が学校・家庭・地域と一体となり、地区懇談会や三世代グラウンドゴルフ、その他様々な行事を開催し、ココロねっこ運動を推進しています。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止となりました。今年度もコロナ禍で活動が制限される可能性があります。各健全協は子どもたちの健やかな育ちのために今できることを考え、活動を進めます。地域が一体となって子どもたちを育てる環境をこれまで以上に作っていきけるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。



有害図書類回収ポスト「白ポスト」について

右の写真をご覧ください。これは、有害図書類回収のための「白ポスト」です。青少年にとって有害な雑誌やDVDなどを回収するためのポストで、大村市には大村駅、竹松駅、バスターミナル、サンSPAおおむらに設置されています。少年センターでは、地域の有害環境浄化のために、毎月回収作業を行っています。

ここ数年の回収状況を見てみると、大村市では、図書類、DVD類共に回収数が減少しています。原因は定かではありませんが、コンビニエンスストアの成人向けコーナーの撤去により有害図書類を購入しにくくなったこと、スマートフォン等でインターネット上の有害サイトを容易に閲覧できるようになったことなどが原因かもしれません。今後は青少年がアダルトサイト等にアクセスできないよう、フィルタリングの設定を呼びかけるなどの対策を強化していかなければなりません。

回収数は減少傾向とはいえ、年間に多くの有害図書類が入れられており、白ポストは環境浄化の役目をしっかりと果たしています。青少年の健全育成のために、今後も回収へのご協力をお願いいたします。



3月に修理した大村駅の白ポスト

過去3年間の有害図書類回収数

	図書類	DVD類	その他(雑誌・新聞紙等)	合計
平成30年度	451	379	48	878
令和元年度	178	67	111	356
令和2年度	176	81	56	313

【4～6月の定期街頭補導報告より】

- 自転車通行中の高校生と社会人に無灯火の指導をしたところ、すぐに灯火してくれた。
- アーケード内を自転車で通行していた中・高校生に降りるよう声をかけたら素直に応じた。
- 公園で高校生男女が話をしていたので帰宅を促した。
- 公園で動画を撮影していた高校生がいたので、早く帰宅するよう声をかけた。
- 大村駅とコンビニで職員と店員に話を聞いたが特に問題なしとの回答だった。



※大村市少年補導委員は、子どもたちの非行・被害防止のために毎月2回の定期街頭補導を実施しています。

< 連載コラム >

- 1 「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- 2 「耳」は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
- 3 「目」は、人の良いところを見るために使おう。
- 4 「手足」は、人を助けるために使おう。
- 5 「心」は、人の心の痛みがわかるために使おう。

中学校の体育教師でバスケットボール部の顧問をされていた越塚勇人先生は、事故で首の骨を折ってしまい、奇跡的に命はとりとめたものの、首から下がまったく動かなくなっていました。しかし、想像を絶する機能回復訓練を乗り越え、奇跡的な回復を見せ、4か月で現場に復帰することができました。

越塚先生は、学校に復帰する時に、この「5つの誓い」を決め、自らに課したそうです。

子どもたちは、あらゆる場面で、「口」「耳」「目」「手足」「心」を「5つの誓い」のように使っています。しかし、その逆も、個人差もあります。そのことでの行き違いやトラブルも多々あります。「かつての時代」は、地域の中で、年齢差に関係なく多くの仲間や人との交わりの中で、社会のルールや人との交わり方を身に付け、トラブルも「お互いのこと」としたり、「自己昇華」できていたりして、「たくましく育てて」いたのが、近年は、その部分の経験不足や社会の価値観の変容等のために、悩んだり、つまずいたりすることも少なくありません。

昔も今も、人は多くの交わりの中で生きています。葛藤や軋轢（あつれき）もあります。その交わりの中で、よりよき経験と関係を広げていけたら、きっと「円滑な」人づきあいが可能となっていくのだと思います。その第一歩として、周囲の自分への受け止め方を変えるのを待つのではなく、まず自分が変わることに。まず自分が変わることで、自分の周囲との関係や「生き方」「人生」が、より深く豊かで、意義深いものになっていくのではないのでしょうか。無限大の可能性をもった子どもたちには、そんな人生を歩んでほしいと思うのです。

< ひびく・1 >



青少年に関する相談は少年センター(月～金 8:30～17:30)へ
☆相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263
☆Eメール相談 : kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp